ありがとう さようなら

JR恩根内駅・初野駅 廃止

北海道旅客鉄道㈱（JR北海道）は、過去5年間で1日平均3人以下という利用の少ない駅について、経営基盤の強化を図る一環として、廃止せざるを得ないとの結論に至り、令和6年3月16日のダイヤ改正時に恩根内駅、初野駅の2駅が廃止となりました。

宗谷本線は、明治28年に制定された「北海道鉄道敷設法」によって、旭川以北の鉄道（当時は天塩線）敷設が決定。明治36年9月に名寄まで開通後、明治44年11月3日、名寄ー恩根内間が開通し、町内に美深・紋穂内・恩根内駅の3駅が開設されました。

大正元年11月5日、恩根内ー音威子府間が開通され、その後10年の歳月をかけて大正11年11月に稚内（現在：南稚内駅）まで開通しています。

平成28年11月、JR北海道は「JR単独では維持困難な路線」を発表。さらに単独維持に困難な路線に対し、市町村の負担を求める方向性を示しました。

この中には、美深町を通る宗谷本線も含まれ、宗谷本線沿線市町村などで組織する「宗谷本線活性化推進協議会」の議論を通じて存続に向け取り組んできましたが、令和3年3月には南美深駅、紋穂内駅、豊清水駅が廃止となりました。

そして、令和6年3月15日の最終営業日に、富岡・吉野・班渓・恩根内自治会がお別れセレモニーを開催。住民や鉄道ファンが集まり、「さよなら、そしてありがとう」の横断幕を掲げて列車を見送り、恩根内駅112年、初野駅75年の歴史に幕を下ろしました。

廃止となった恩根内駅、初野駅それぞれの歴史を紹介します。

恩根内駅

〈アイヌ語「オンネ・ナイ」（親川）〉

開業は明治44年11月3日、当初宗谷本線の終着駅として乗降客や貨物の発着に活況を呈しましたが、翌年の大正元年11月5日、鉄道が北に延びたことにより一時減少することもありました。また、開駅当時は「天塩線」の終着駅として、機関車の転車台もありました。開駅とともに駅前は市街地化し、恩根内地域の中心的役割を果たしていました。

初野駅

昭和22年5月31日、班渓・富岡地区（一部西里、吉野地区含む）の強い要望により、国鉄美深ー紋穂内間（富岡14線）の乗降場設置を運輸大臣や関係機関に陳情し、昭和22年9月に「初野乗降場設置促進期成会」が結成されました。

当局の数回にわたる現地調査によって乗降場の設置が認められ、翌年6月にホームや待合所が地元負担によって完成されました。

昭和34年11月1日から普通駅（駅員無配置）に昇格し、昭和35年には乗降客5万7千700人の記録が残っています。